

今年も節分の季節となりました。一般的には節分は季節を分けるという意味で、もともとは立春、立夏、立秋、立冬の前日を表していました。しかし、旧暦では新年が立春にあたる年が多かった事、そしてそれに合わせて豆撒きを行い、邪気を払う追儺<sup>ついな</sup>の儀式が行われた事から、現在では節分といえば立春の前日となっています。

この節分の儀式、「福は内、福は内、鬼は外」とか「鬼は外、鬼は外、福は内」とかけ声をかけながら豆を撒きます。豆を鬼に向けて撒いたり、豆を鬼に見立てて撒くという意味があるようです。

さて、この鬼とは一体何なのでしょう？

古より、私たちの先祖は様々な災害、病気などの災いに直面してきました。旧暦では新年が立春にあたる年が多かったとの事ですから、新しい年を迎えるに際して、新たな年は少しでも災いから逃れたいという切実な思いがあったことと思います。それらの災いを鬼として豆を撒き、鬼は外とかけ声をする事で追い払うという事だったのかもしれませんが。

ただ、避けることの出来ない自然災害、病などの災い以外にも辛く、苦しい事があります。人間社会の辛さをはじめとする、様々な思い通りにならない事の苦しみです。人間関係の中で生きている私たち、殊更に思い通りにしたいと我<sup>が</sup>を通し、思い通りにならなければ不機嫌になったり、他人に八つ当たりしたり、冷静な判断ができなくなったりと自ら、マイナスの方向に向かってしまいがちです。

そんな事がと、思っただけでもいられません、さまざまな紛争や事件、自然破壊もそれぞれの人間の思い込み、思い違い、それが原因の小さな争い、そして、そん

## 『 禅のこころ -曹洞宗- 』

---

な冷静さを失った人間が集まってくださ判断、そんなことが原因となっているのではないのでしょうか。

実際には鬼は自らの内にもいるのです。内なる鬼に豆を撒きましょう。

— 終 —